

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790500031		
法人名	社会福祉法人みとし会		
事業所名	楽陽荘グループホームちーず		
所在地	香川県観音寺市柞田町甲1936番地		
自己評価作成日	平成28年6月20日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/37/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成28年7月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事に参加したり、季節の花などを見に行ったりして、地域の人たちと交流する機会を持つようにしている。 ・ご利用者の誕生日にはご本人、ご家族と相談して、ご利用者の馴染みの場所へ出かけている。 ・年に2回、家族会を開き、ご家族間と職員の交流の場を設けている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

<p>当事業所の玄関前に広い敷地があり、利用者と職員が散歩や交流をする場となっている。周辺にはイチゴ畑や少林寺拳法の道場があり、子どもたちの姿が見られる静かな環境である。職員は理念に基づき、今年度の目標を掲げて、日々のケアに取り組んでいる。また、職員一人ひとりが個人目標を決め、具体的なサービスの提供を行っている。職員は利用者一人ひとりの「強み」を見つけ、それを引き出せる様に実践状況を記入し検証表で確認している。利用者がその人らしく暮らし続けることができるように、地域密着型サービスの役割を果たそうと、職員全員が努力している事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念と年間の目標を、毎朝朝礼で唱和して、毎日、意識を持って実践するように努めている。	前回の外部評価後、「基本理念を基に、年度毎に目標を作成し、それを基に全職員が、個人の目標を立て理念を意識して行動できることを目指す」という目標達成計画を立て、実践している。	個人目標を立てることで理念を共有して実践につなげる取り組みが行われているが、10年前の開設時と比較して、地域の状況や利用者のニーズが変化しており、地域密着型サービスを意義をふまえた、事業所としての目標を職員全員で話し合われることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	文化展や秋祭りなどの地区の催しものに参加したり、中学校のワークキャンプで中学生と交流ができています。また、近隣の少林寺拳法の子ども達との交流もしている。	地域の一員として自治会に加入し、夏祭や地区文化祭、小学校の学習発表会などで交流している。近所の理髪店による、車いす利用者のための出張サービスがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の文化展に作品を出展したり、地区の催し物に参加することで、認知症の人への理解が得られるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の運営推進会議には、自治会長・地域住民代表・市の担当者・主治医・ご家族代表の参加がある。そこで出された意見や要望をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、地域の自治会長や民生委員・家族・行政のメンバーで構成され、意見交換している。会議の内容は、議事録に詳細に記録し、メンバーから出された意見を運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に一回程度、市の担当者に事業所の実情やケアサービスの取り組み状況などを相談して、指導を受けている。	介護認定更新時や訪問調査時は市役所を訪れ、担当者と話している。市職員は、運営推進会のメンバーであり、事業所からの相談に対して率直な意見を出し、良好な協働関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会が中心となり、身体拘束につながる行為や言葉についての研修を行い、全職員が、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	徘徊や車いすからの転落など、利用者一人ひとりのリスクを把握し、見守りや事故防止に努めている。玄関には、チャイムや防犯カメラを5か所設置し、鍵をかけずに安全に過ごせる工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会が中心となり、虐待についての研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今までに該当する事案が無いので、十分に理解できるまでの学習はできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には当事業所を利用するにあたり、ご利用者やご家族が抱えている不安な気持ちを解消できるように説明を行っている。解約また改定時には、十分な説明を行って理解・納得をしてもらい同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃よりご利用者や面会時にご家族の声を聞いている。また、年二回の家族会の開催や運営推進会議へのご家族代表の出席にて意見をいただいている。	家族の面会や家族会時に、ゆっくりと話し合う場を設定し、思いが伝えやすい雰囲気づくりとなっている。家族からは地域のイベント情報や外出に適した場所の提案がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のスタッフ会議の開催時に、職員の意見交換をしている。	毎月1回、19時からスタッフ会を開催している。職員から積極的な意見や提案が出されており、サービス向上につなげている。職員から入浴時間や座席について意見があり、運営に反映させている。	議事録を作成し、回覧するなど、スタッフ会に参加していない職員への周知や全職員の意思統一が図られような取り組みを検討し、現場で働く意欲の向上を図るため、更なる対策を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士や介護支援専門員の受験資格ができた職員には、受験するように働きかけると共に、施設内研修を行うなど、職場環境を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修では各委員会年間計画を立て、全職員が研修を受けている。施設外研修を受けた職員は、スタッフ会議で報告、発表をして研修内容を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	資格更新時などの研修を通じて、同業者との交流を持っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面接などで、ご本人が困っていることや不安に感じていること、当事業所への希望要望などを聞いて、どのように支援をしていけばよいかを、職員で話し合い、ご本人との良い関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込み時に、今どのような事に困っているかや当事業所への要望などを傾聴して、ご家族の気持ちを理解している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の相談を受けた時に、当事業所へ入所できる要件を知らせている。もし、入所の要件に該当しない場合は、他の利用できるサービスを知らせて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理・洗濯・掃除などの家事を、ご利用者と一緒に行いながら感謝とねぎらいの言葉をかけて共に過ごしている。また、縫い物ができるとご利用者には布巾や文化展の作品作りをしてもらうことで、満足感が得られるような支援をしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	個々のご利用者のご家族のそれぞれの思いを、大切にしながら支援している。定期的にご家族が外出する機会をつくり、ご利用者の楽しみとなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで大切にしてきた友人や知人が、訪問しやすいような雰囲気作りに配慮している。また、ご本人がこれまで住んでいた馴染みの場所へは、誕生日企画として個別に同行する支援を行なっている。	なじみの美容院や友人宅へ家族と一緒に出かけたり、母の日や敬老の日の祝いをもらった人へ礼状を出すなどを支援している。茶道の指導者であった利用者には、お茶をたててもらい、みんなで談話している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事等を一緒に行い、役割を分担して、ご利用者同士が助け合う気持ちを大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後もご本人、ご家族と会う機会があり、様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向や思いが実現することが困難であっても、目標を決めて、小さな達成度でも喜び合い、意欲が持てるよう支援している。	センター方式シートから、アセスメントを更に充実させるために、変更したシートを活用している。利用者一人ひとりの思いや意向が、充分反映されるよう、職員全員で取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の面会時や行事、日々の活動の中での何気ない話の内容に耳を傾けたり、さりげなく声をかけて、生活歴やこれまでの暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態を考慮しながら、ご本人の趣味や興味のある内容を理解して、その人らしい毎日を過ごしていただけるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	実行状況を検証表で確かめて、月一回のモニタリングをしている。職員の意見を聞き、目標に向かって達成できるような支援を、介護計画に盛り込んでいる。	本人や家族・職員が話し合い、介護計画を作成している。職員が小さな気づきシートに記入したことを、計画作成者が、ケアプランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画について、実行した内容や一緒に過ごしながら気付いた点など個別に記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者のその時々のお話に耳を傾けて、一緒にしたい事やできる事を増やして、楽しみを一緒に見つけている。また、遠方のご家族や高齢のご家族の希望に添えるように話を聞いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の図書館から本などを借りて、レクリエーション等に活用している。また、近くの理容店に行くなど、地域の資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望している病院の医師が、かかりつけ医となっている。ご家族と相談の上で、受診時に同行して連絡・相談を行っている。	入居時にかかりつけ医を把握し、受診の支援について話し合っている。認知症専門医やなじみの歯科・眼科への受診は、家族が通院介助し、受診結果は家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者との関わりの中で気付いた心身の変化などを、職場内の看護職が中心となり、かかりつけ医に報告相談することで、ご利用者の日常の健康管理ができ、必要時は受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者の入院時には、安心して入院治療ができるように、ご本人の介護に関する情報を、医療機関に提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時に『重度化した場合における対応の方針』を基に、ご家族に説明をしている。また、体調の変化により、その都度、ご家族・かかりつけ医・職員などで話し合いを行い支援している。	重症化した場合の対応については、契約時に本人や家族に充分説明し、対応方針の共有を図っている。利用者の状態に変化が生じた場合は、主治医や家族・職員などで話し合い、適切な医療機関を紹介している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の体調の急変に気付けるように、感染症委員会が中心となり、研修やマニュアルの見直しを行っている。介護事故の対応については、地域の消防署からの救急法による研修を職員全員が受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回、日中、電話による夜間想定避難訓練を行っている。地震水害想定特別養護老人ホームとの合同訓練も行って、お互いの協力体制ができています。	昨年、消防署から救命法の指導や所内点検を受けた。今年も継続し、災害に対する職員の意識向上に努めている。水害は特別養護老人ホームと合同訓練している。前回の外部評価後に作成した目標達成計画で、備蓄の準備を計画し、現在、事業所独自で3日分備蓄している。	地域防災力の要である地元の消防団と連携を密にするために、運営推進会議への参加を呼びかけるなど、地域との協力体制をより具体化する取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	『プライバシー保護の取り組みに関するマニュアル』を基に、研修を行っている。ご利用者の人格を尊重した対応を心掛けている。	職員は研修で学んだこと(言葉かけや接し方、介助の方法など)を、一人ひとりが具体的な目標を立て、利用者へ接している。事業所の理念をケアに反映させるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からご利用者とお話をして、ご本人の思いや希望が聞けるように、人間関係や環境を整え、自己決定できるように気を配っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人ひとりの気持ちを大切に、ご本人の希望に合わせた暮らし方を、個別に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地元の理容店に定期的に訪問理容を受けたり行ったりしている。そして、ご利用者と相談して、その日に着る服を決めたり、お化粧をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と盛り付けや配膳など、ご利用者のできる事を一緒に行っている。また、下膳、片付けも、ご利用者同士が声をかけ合って、一緒に行っている。	利用者の疾病や好みに合わせて、主食の量や内容、食材の調理方法を変えている。利用者職員が一つのテーブルを囲み、楽しい食事時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の状態や好みに合わせた食分量、形態を用意すると共に、傍で食べやすい大きさにほぐしたり、細かくして提供している。また、魚が苦手なご利用者には、代替品を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけにより、ご本人に合った口腔ケアを行っている。その際、緑茶によるうがいを実行している。義歯のご利用者は、夕食後に義歯洗浄剤に浸けて清潔にしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	早目のトイレ誘導を行い、失禁やパッドの使用量を減らしている。車椅子のご利用者もトイレでの排泄が出来るよう介助したり、必要時は夜間にポータブルトイレを置いている。	排泄記録表をもとに、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、担当者がトイレ誘導している。紙パンツやパッドは、布パンツに換えたり、トイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	『排便チェック表』で、排便の状態が把握できている。薬での排便を無くすため、ヨーグルトや寒天茶などの水分を多く摂るようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週三回、入浴をしているが、希望時は他の日にも入浴している。気の合うご利用者同士で入浴することで、会話ができています。また、一人での入浴を希望する利用者には、個別で入浴できるように配慮している。	入浴の日時や洗身方法は、利用者の体調や希望で変更可能である。安全でくつろいだ入浴ができるように、職員間で話し合われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけ活動を促して、生活リズムを整えるようにしている。眠りが浅い方、寝つきがよくない方が、安心して休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、個々のご利用者の薬の情報を理解して、決められた服薬時間を守っている。薬は一錠ずつ手渡しして、服用したのを確認している。薬局の療養管理を受け、相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者一人ひとりの意向を聞くと共に、生活歴を理解して、そのご利用者の持っている力を引き出し、役割をみつけ、やる気や達成感を感じてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、玄関前の駐車場や近隣を散歩したり、公用車で花見物や寺社参りを兼ねてドライブに出かけている。また、ご家族の協力を得て外出ができています。	夏は戸外の散歩は控え、事業所内の長い廊下を歩いたり、体操をしている。隣接する特別養護老人ホームで音楽療法などの行事に参加したり、公用車で買い物や受診、家族と外出などを支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族とも充分相談し、金銭の所持に対する支援は行っていません。利用者が購入したい物ができた時は、ご家族に相談してご家族が買い物をしたり、職員が買い物支援を行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族や知人と電話で話ができるように支援している。ご家族から定期的にハガキが届いたり、手紙や年賀状を出している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂では机の配置などを、ご利用者と相談して決めている。季節毎に適度な温度に設定し、一日二回換気をしている。季節の野菜作りを、ご利用者の希望を取り入れながら協力して行っている。	玄関は段差がなく、車いすの移動や出入りがスムーズで安全である。トイレや廊下は広く、手すりを設置している。天井は高く、煙窓があり明るく涼しい。安全衛生委員会のメンバーが定期的に巡回し、温度や清掃状態の点検、感染症予防管理などを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の籐の椅子に座って、パズルなどをして、くつろげる工夫をしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋にご利用者が長年愛用してきた思い出の家具を持参したり、家族の写真を飾って、ゆっくりと過ごせるような工夫をしている。	自分で作った人形や思い出の写真、習字などを飾っている。エアコンが嫌いな人は、扇風機や加湿器を持ち込み、本人にとって居心地のよい居室となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のご利用者がどんな事がどの位できるか、何が理解できているかなどを、把握している。そして、廊下、トイレ、浴室、脱衣室には、手すりを設置して、安全に自立した生活が送れるように支援している。			

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に職員で基本理念と年度の目標を唱和して、それに基づいたサービスを提供している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏には中学校のワークキャンプで中学生と一日を通しての交流や近隣の少林寺拳法の子ども達との交流もある。地元の夏祭りや秋祭りに出かけたり、地区の作品展にも作品を出している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所の申し込みに来られた地域の人に認知症について相談を受けた時は、ご家族をねぎらい話を伺っている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、災害時の対応や協力、地元の行事への参加などを、地域住民代表や家族代表、市の職員の意見を聞き、取り入れている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に一回程度、必要時には市の担当者に事業所の実情やケアサービスの取り組み状況などを相談し、指導を受けている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会が中心となり、身体拘束につながる行為や言葉についての研修を行い、全職員が身体拘束をしないケアに全職員で取り組んでいる。マニュアルを年一回、見直しをしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会が中心となり、虐待について研修とマニュアルの見直しを行っている。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今までに該当する事案が無いので、十分に理解できるまでの学習はできていない。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には当事業所を利用するにあたり、ご利用者やご家族が抱えている疑問点、不安な気持ちを解消できるように説明を行っている。解約又改定時には十分な説明を行って、理解・納得してもらい同意を得ている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃よりご利用者や面会時のご家族の声を聞いている。また、ご家族の意見や要望を聞けるように年二回の家族会の開催や運営推進会議に家族の代表が出席している。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のスタッフ会議の開催時に、職員の意見交換をしている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士や介護支援専門員の受験資格ができた職員には、受験するように働きかけると共に、施設内研修を行うなど、職場環境を整備している。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修では各委員会年間計画を立て、全職員が研修を受けている。施設外研修を受けた職員は、スタッフ会議で報告、発表をして研修内容を共有している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	資格更新時などの研修を通じて、同業者との交流を持っている。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面接などで、ご本人が困っていることや不安に感じていること、当事業所への希望要望などを聞いて、どのように支援をしていけばよいかを、職員で話し合い、本人との良い関係が築けるように努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込み時に、今どのような事に困っているかや当事業所への要望などを傾聴して、ご家族の気持ちを理解している。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の相談を受けた時に、当事業所へ入所できる要件を知らせている。もし、入所の要件に該当しない場合は、他の利用できるサービスを知らせて対応している。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の盛り付けや洗濯たたみなどの出来る事を一緒に行っている。役割を持つ事で満足感が得られる支援を行っている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時に日頃の様子をお知らせし、より良い生活のために相談している。家族会にも遠方からの参加があり、協力を得ている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者のご近所さんや趣味でのお知り合いの面会が続いている。誕生日企画では、ご本人の馴染みの場所にドライブに行っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うご利用者同士が同じテーブルに座り、お話や家事、レクリエーションなどで一緒に楽しまれ、穏やかに過ごされるように配慮している。また、部屋で過ごされている時は、職員が訪室してお話をしている。
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後もご本人、ご家族と会う機会があり、様子を伺っている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画作成時には、ご本人とご家族の意向に沿ったアセスメントを行っている。アセスメントは、包括的自立支援プログラムのケアチェック表を使用している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族とのお話を通じて、これまでの生活歴やそれまでの暮らし方の把握に努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのペースで穏やかに過ごせるように気を配り、今出来ている事を続けられるように支援している。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成の話し合いには、ご本人・ご家族の同席・同意を得ている。欠席する職員には、事前に意見を聞くなど、全員が関わっている。そして、月一回のモニタリングを行い、次回の介護計画に盛り込んでいる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って実行した事やご利用者の言葉を個別に記録している。実行状況については、検証表で確認している。ご利用者の状態が変わった時には、フロアカンファレンスを行い、見直しをしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方の病院への通院を希望される場合は、職員が送迎をして付き添っている。また、必要な買い物をご家族から依頼された時は購入を代行している。
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の図書館から本などを借りて、レクリエーション等に活用している。また、近くの理容店に行くなど、地域の資源を活用している。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望している病院の医師が、かかりつけ医となっている。ご家族と相談の上で、同行して連絡・相談を行っている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者との関わりの中で気付いた小さな変化などを、職場内の看護職が中心となり、かかりつけ医に報告相談することで、ご利用者の日常の健康管理ができ、必要時の受診につなげている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者の入院時には、安心して入院治療ができるように、ご本人の介護に関する情報を、医療機関に提供している。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時に『重度化した場合における対応の方針』を基に、ご家族に説明をしている。また、体調の変化により、その都度、ご家族・かかりつけ医・職員などで話し合いを行い支援している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の体調の急変に気付けるように、感染症委員会が中心となり、研修やマニュアルの見直しを行っている。介護事故の対応については、地元の消防署からの救急法による研修を職員全員が受けている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回、日中、電話による夜間想定避難訓練を行っている。地震水害想定特別養護老人ホームとの合同訓練も行っており、お互いの協力体制ができています。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	『プライバシー保護の取り組みに関するマニュアル』を基に、研修を行っている。ご利用者の人格を尊重した対応を心掛けている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からご利用者とお話をして、ご本人の思いや希望が聞けるように、人間関係や環境を整え、自己決定できるように気を配っている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人ひとりの気持ちを大切に、ご本人の希望に合わせた暮らし方を、個別に支援している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地元の理容店の訪問理容やご家族の協力での美容院へ行っている。毎日、着る服は選んで頂いている。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理の下ごしらえや盛り付けを、ご利用者と一緒に行っている。箸や湯飲みは、馴染みのある個々の物を使用している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の状態にあった食事形態にして、提供している。食事・水分量の少ないご利用者は、記録表をつけている。また、朝、起きれないご利用者には、時間をずらして提供している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけにより、ご本人に合った口腔ケアを行っている。その際、緑茶によるうがいを実行している。義歯のご利用者は、夕食後に義歯洗浄剤に浸けて清潔にしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	早目のトイレ誘導を行い、失禁やパッドの使用量を減らしている。車椅子のご利用者もトイレでの排泄が出来るよう介助したり、必要時は夜間にポータブルトイレを置いている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	『排便チェック表』で、排便の状態が把握できている。薬での排便を無くすため、ヨーグルトや寒天茶などの水分を多く摂るようにしている。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調に合わせて無理の無いように調節している。入浴しなかった時は清拭・更衣をして次の日に勧めている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて日中に昼寝の声かけをして身体を休めて頂いている。夜間、眠りの浅いご利用者には、日中に身体を動かすよう支援している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	感染症委員会が中心となり、個々のご利用者の病名と薬の効能などの研修を行い理解ができている。また、薬局の療養管理を受けており、相談している。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ゴミ箱作りやお盆拭き、洗濯たたみなど、一人ひとりのできる事を見つけ、役割を持つことで、やりがいを持ってもらっている。また、ボランティアを受け入れて、気分転換の支援を行っている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	彼岸参りなどにご家族と外出したり、外食をする協力を得ている。また、季節の花見物や寺社参りなど、公用車での外出を計画している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族とも充分相談して、金銭の所持に対する支援は行っていない。利用者が購入したい物ができた時は、ご家族に相談してご家族が買い物をしたり、職員が買い物支援を行っている。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人と電話で話ができるように支援している。ご家族から定期的にハガキが届いたり、手紙や年賀状を出している。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏・冬と温度調節に気を配っている。夏に日差しの強い窓に、緑のカーテンが育つようにしたり、冬は乾燥しないように気を配っている。掲示物は、季節感のあるものを、ご利用者と一緒に作り飾っている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のベンチや居間で新聞を読んだり、食堂で皆さんとテレビ鑑賞や話をして過ごされている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族が持参した家具や電化製品を置いている。また、写真を飾ったり、洋服掛けを置いて、ご利用者が居心地よく過ごせるようにしている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩けるご利用者には、廊下の手すりを持ち歩けるように声かけをしている。車椅子のご利用者には、トイレや浴室の手すりや立位が取れるように支援している。トイレや部屋が分からないご利用者には、場所が分かるように工夫している。